

これみ
週刊「考歴民」 No31

2021.10.25 交野古文化同好会
考古・歴史・民俗の頭文字を取って考歴民
(これみ)と名付けました。

=チョット立ち寄り賤ヶ岳=

明智光秀が、本能寺で織田信長を滅ぼした後、電光石火の速さで誰よりも早く光秀を討ち、事態の収束を図った。

しかし信長の後継をめぐり、織田家の老臣・柴田勝家との対立は深まっていく。

天正11年(1583)春が過ぎる頃、この地で天下をかけた戦いがはじまる。

秀吉 47歳



羽柴(豊臣)秀吉といえば、信長の草履とりから始め、墨俣一夜城や稲葉山(岐阜)城攻めの軍功により信長家中で重きをなし、立身出世していく。



墨俣一夜城の建築

おそらく簡単な櫓程度と考えられる墨俣一夜城だが、短期間で城を築くという奇策を講じて敵を牽制し、信長の目を引いたことは秀吉出世の足掛かりとなった、幻の戦う城?

天正元年(1573)に湖北の戦国大名、浅井長政が滅び、その旧領を得た秀吉は、今浜(秀吉により、長浜と改名)に城を築く。



長浜城

柴田勝家は、越前国北ノ庄に本拠地を置く。雪のため動くことが出来ず、雪どけが始まった頃ようやく出陣し、余呉湖を挟んで柴田軍と羽柴軍両軍は北と南でにらみ合っていました。柴田軍が大岩山に奇襲をかけて始まり、羽柴軍が勝利を手にするまで、わずか2日足りずで戦いは終わりました。



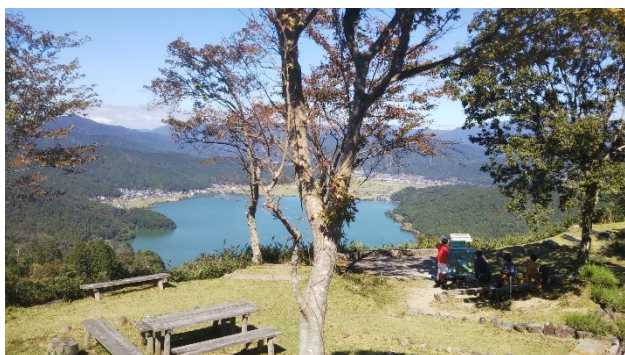
奥琵琶湖

南西は奥琵琶湖と比良山系、竹生島など湖山の美しさ、東は小谷城址、伊吹山。北は羽衣伝説の余呉湖が一望できます。



山頂広場に戦跡碑や戦没者の碑

あたりは、たくさんの死体で埋め尽くされ、余呉湖が血で紅色に染まったといわれます。



余呉湖

世に名高い秀吉旗下の「賤ヶ岳七本槍」が活躍したのはこの時のことです。

秀吉、はるかに之を望み、旗本の若武者どもをきくと見て

「てがらはつかえから仕勝ちぞ

かかれ かかれ」と大音声

(尋常小学校国語読本より)

*賤ヶ岳の戦いは1583年(天正11年)に賤ヶ岳(滋賀県長浜市)付近で起きた、「羽柴秀吉」と「柴田勝家」の戦いで、その後の日本の歴史を変える大きな転機となった戦いです。

*羽柴秀吉(1537-1598)

秀吉、草履取り時代のエピソード

寒い雪の日に、織田信長の草履を懐に抱いて温めた、という話です。でも実は、このとき、信長は秀吉が自分の草履を尻に敷いていたと早とちり

し、ぶっ飛ばしたらしいのです。

ところが、秀吉はひとことも言い訳をせず、翌朝、また懐に入れて温めた、するとまた信長が怒る……。何度怒っても秀吉がやめないのです、さすがに信長もおかしいと思い、秀吉に尋ねました。「お館様の草履を、懐に抱いて温めていました」着物の胸元を広げると、そこにはなるほど、泥がついています。なんとも演出効果抜群、他人に対して厳しい信長の目にも「かわいいヤツ」自分が足につけるものを、秀吉は胸に抱いて温めてくれたわけですから、信長の自己重要感が高まったはず。そんな秀吉に活躍の場が与えられないわけがありません。

草履取りという雑用係から足軽、侍、さらに侍大将へ……。相変わらず信長の自己重要感を満たし、城持ち大名になっていった。

*柴田勝家(1522-1583)

戦国-織豊時代の武将。

大永(たいえい)2年生まれ。はじめ織田信行、ついで信長につかえて戦功をたて、越前(福井県)北庄城主となる。

本能寺の変後、信長の後嗣をめぐり羽柴(豊臣)秀吉と対立、賤ヶ岳の戦いに敗れ、妻お市の方(信長の妹)とともに天正(1583)11年4月24日自刃。62歳。尾張(おわり)(愛知県)出身。通称は権六、のち修理亮。

【格言など】先陣の大將たる者、威権なき

*「賤ヶ岳の七本槍」とは、賤ヶ岳の戦いにおいて功名をあげた「七人の若武者」のことを指します。

加藤清正、福島正則、加藤嘉明、平野長泰、脇坂安治、糟屋武則、片桐且元、七人は、この大切な合戦で功名を立て、賤ヶ岳の戦い後に豊臣秀吉から称えられた七人の若武者たちのこと。9人との説も。

次回は11/1